本市の輝く資源『養蚕』の復興対策・市民の政治参加の基盤づくりについて

原田　大（日本共産党安中市議団）

本市の輝く資源『養蚕』の復興対策について

問　企業による新たな養蚕参入の動きは。

答（みりょく創出部長）　１法人から相談があり、大規模養蚕経営を目指す企業参入は、碓氷製糸の業績拡大と地域養蚕の活性化に繋がり、取り組みを支援しています。

問　当該企業は今後のトレンドとして化学繊維から天然素材への回帰に着目。その他ワクチン製造開発に蚕の蛹を使用したいという企業が現れ、供給が追い付かない状況。また農研機構が開発した蚕の新品種により商品開発を進める製薬会社から蚕の飼育依頼が入った。これら企業ニーズに対応すべく体制準備と情報発信すべきでは。

答（同部長）　シルクはサステナブルな繊維として海外でも注目されており、新たなニーズに対し関係機関と連携し、養蚕振興の取り組みの情報発信に努めていきます。

問　本市を含む当該地域一帯は養蚕インフラが今でも日本で唯一整っている、あえて言えば先進国の中で唯一無二の場所。光り輝く資源であるという認識はあるか。

答（市長）　碓氷製糸は国内の生糸生産の要として、唯一通年稼働している最大の製糸工場であり、近代から受け継ぐ本市の養蚕・製糸の灯を消してはならないと認識しています。市内養蚕業の活性化と持続的発展に向け、そして認知度向上に取り組みます。

その他、市民の政治参加の基盤づくりについて質問しました。

出荷を待つ繭

特色ある教育の推進について

長嶋陽子（公明党）

不登校支援について

問　児童生徒の一人一台のタブレット端末を活用し相談アプリを導入するなど、SOSを出しやすい相談体制はどうか。

答（教育部長）　悩みを抱える児童生徒に対しては、対面でゆっくり話を聞き、心に寄り添った支援が大切であると考えます。相談アプリ等の利用は、群馬県教育委員会のライン相談のカードを配布しており、中学生が利用できるようになっています。

問　保護者へのサポートは重要であるが、情報提供や交流の集いとなる保護者会の実施状況は。

答（同部長）　学校ごとの保護者会は開催していませんが、必要に応じて、福祉課と連携し「ひきこもり体験談を聞き、対話や交流をする集まり」を周知したり、県より配布される相談機関のリーフレットやカードを配布しています。

問　国が進める、校内教育支援センターの設置促進について、本市の現状は。

答（同部長）　市内小中学校では、ほっとルームやふれあいルーム、学習室の名称で、不登校児童生徒が登校した際に個別で指導する教室があります。今年度、これらの教室を設置している学校は13校中９校です。設置していない学校では、相談室等を必要に応じて使用しています。

問　まだ、教室を設置していない学校への設置については。

答（同部長）　不登校児童生徒の状況や教室配置等を考慮しつつ、各学校と相談しながら検討します。

通級指導教室について

問　通級指導教室に通う回数を増やしてほしいとの保護者からの声がある。体制の充実を図るため、教職員の増員はどうか。

答（教育部長）　通級児童生徒の人数により群馬県教育委員会が配置を決定します。

校内教育支援センター…スペシャルサポートルームとして、校内の空き教室を活用し、落ち着いた空間で学習・生活できる環境を整える。